

二人の友

芥川龍之介

青空文庫

僕は一高へはひつた時、福間先生ふくまに独逸語ドイツを学んだ。福間先生は鷗外おうぐわい先生の「二人ふたりの友」の中のF君である。「二人の友」は当時はまだ活字になつてはいなかつたであらう。少くとも僕などのそんなことを全然知らなかつたのは確かである。

福間先生は常人よりも寧ろ背は低かつたであらう。何でも金縁きんぶちの近眼鏡きんがんきやうをかけ、可成かなり長い口髭くちひげを蓄へてゐられたやうに覚えてゐる。

僕等は皆福間先生に或親しみを抱いだいてゐた。それは先生も青年のやうに諧かいぎやく諷ふうを好んでゐられたからである。先生は一学期の或時間くめまさに久米正雄にかう言はれた。

「君にはこの言葉の意味がクメとれないんですか？」

久米も亦また忽またち洒落しやれを以て酬むくいた。

「ええ、ちよつとわかりません。どう言ふ意味がフクマつてゐるか」

福間先生ふくまは二学期からいきなり僕等にゲラアデ・アウスと云ふギズキイの警句集を教へられた。僕等の新単語に悩まされたことは言ふを待たないのに違ひない。僕は未だいまにその本にあつた、シユタアツ・ヘモロイダリウスと云ふ、不可思議な言葉を記憶してゐる。この言葉は恐らくは一生の間あひだ、薄暗い僕の脳味噌のうみそのどこかに木の子のやうに生えてゐるであ

らう。僕はそんなことを考へると、いつも何か可笑しい中に儂い心もちも感じるのである。福間先生の死なれたのは僕等の二年生になつた時か、それとも三年生になつた時か、生憎はつきりと覚えてゐない。が、その一週間か二週間か前に今の恒藤恭——当時の井川恭と一しよにお見舞に行つたことは覚えてゐる。先生はベッドに仰臥されたまま、たつた一言「大分好い」と言はれた。しかし実際は「大分好い」よりも寧ろ大分悪かつたのであらう。現に先生の奥さんなどは愁はしい顔をしてゐられたものである。

或曇つた冬の日の午後、僕等は皆福間先生の柩を今戸のお寺へ送つて行つた、お葬式の導師になつたのはやはり鷗外先生の「二人の友」の中の「安国寺さん」である。

「安国寺さん」は式をすませた後、本堂の前に並んだ僕等に寂滅為樂の法を説かれた。「北郎山頭」一片の煙となり、——僕は度たび「安国寺さん」のそんなことを言はれたのを覚えてゐる。同時に又丁度その最中に糠雨の降り出したのも覚えてゐる。

僕はこの短い文章に「二人の友」と云ふ題をつけた。それは勿論鷗外先生の「二人の友」を借用したのである。けれども今読み返して見ると、僕も亦偶然この文章の中に二人の友だちの名を挙げてゐた。福間先生にからかはれたのは必しも久米に限つたことではない。先生はむづかしい顔をされながら、井川にもやはりかう言はれた。

「そんな言葉がわからなくてはイカハ。」

(大正十五年一月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

二人の友

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>